

令和7年度 全国学力・学習状況調査 CBT（オンライン方式）での実施の結果等について

目 次

- 1 令和7年度全国学力・学習状況調査の結果（概要）
- 2 令和7年度「中学校理科」（CBT）の調査結果・活用
- 3 質問調査の結果（ICT関係）

令和7年9月8日
文部科学省総合教育政策局参事官（調査企画担当）付学力調査室



調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、

全国的な児童生徒の学力や
学習状況を把握・分析し、
教育施策の成果と課題を検証し、
その改善を図る

学校における児童生徒への
学習指導の充実や
学習状況の改善等に
役立てる



そのような取組を通じて、
教育に関する継続的な
検証改善サイクルを
確立する



調査概要

調査実施日	令和7年4月14日(月)～17日(木)
調査対象	①児童生徒：小学校6年生、中学校3年生 ②学 校：小学校等（約19,000校）、中学校等（約10,000校）
調査事項	①児童生徒：教科調査〔国語、算数・数学、理科〕 / 質問調査 ②学 校：質問調査
調査問題	・学習指導要領で育成を目指す、知識及び技能や思考力、判断力、表現力等を問う問題を出題。 ・「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善のメッセージを発信。
今年度の調査の特徴	・CBT調査の導入（中学校理科） ・生徒質問でのランダム方式の試行 ・結果公表の内容、スケジュールの改善

全国（国公私）の
平均正答数（率）・
平均IRTスコア

小学校						中学校					
国語		算数		理科		国語		数学		理科	
9.4/14 問 (67.0%)		9.3/16 問 (58.2%)		9.7/17 問 (57.3%)		7.6/14 問 (54.6%)		7.3/15 問 (48.8%)		505	
男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
63.1%	70.9%	59.0%	57.3%	55.8%	58.8%	52.0%	57.4%	49.1%	48.6%	503	508

CBT調査の実施状況

※調査対象の児童生徒のいる各学校から提出された「調査終了報告」、令和7年5月13日付け事務連絡にて依頼した「実施後アンケート」、及びMEXCBTに記録された結果に基づき集計。

「中学校理科」
の実施状況

参加した学校数（中学校等）：9,611校
 [うち「中学校理科」を実施した学校数：9,599校（実施率 99.88%）]
 [うち「中学校理科」を実施しなかった学校数：12校（未実施率 0.12%）]

「中学校理科」を実施した学校数				「中学校理科」を実施しなかった学校数	
調査実施日に調査を実施、完了した学校数	調査実施日に調査が完了せず、後日実施を行った学校数			実施準備・操作面の理由	その他（生徒の体調不良等）
	ネットワーク・端末等の理由	実施準備面の理由	その他		
9,497校 (98.82%)	18校 (0.19%)	26校 (0.27%)	58校 (0.60%)	4校 (0.04%)	8校 (0.08%)

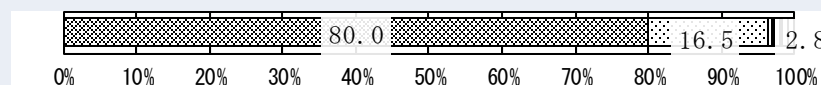
「中学校理科」を実施しなかった学校の不実施理由

- ◆実施準備・操作面の理由：4校（例）後日実施期間があることを知らなかった／学習eポータルアカウントを準備していなかった
- ◆その他（生徒の体調不良等）：8校

生徒質問調査の結果より

（質問）今年度の中学校理科の教科調査は、コンピュータを使っての実施でしたが、機器の不具合等の影響で解答しにくいと感じることがありましたか。

全くなかった：80.0% 時々あった：16.5%
 多くあった：2.8% 無回答：0.7%

学校外実施
の状況

オンライン方式の中学校理科又は児童生徒質問調査を学校外で実施した児童生徒数

※令和7年5月13日付け事務連絡にて依頼した「実施後アンケート」の集計結果（速報値）。

小学校児童：2,887人 中学校生徒：1,639人

支援が必要な児童生徒の参加状況

※令和7年5月13日付け事務連絡にて依頼した「実施後アンケート」の集計結果（速報値）。

小学校（回収率：65.7%）			中学校（回収率：62.3%）		
長期欠席児童	障害がある児童	日本語指導が必要な児童	長期欠席生徒	障害がある生徒	日本語指導が必要な生徒
11,314人	26,545人	2,626人	14,893人	8,322人	1,635人



- 電気が通る回路を実際の生活の中でつくることに関する理解に課題が見られた。
 - 化学変化を原子や分子のモデルで表すことに課題が見られた。
- 問題解決や科学的な探究のプロセスを通して、学習を通して身に付けた知識を活用することができるような指導の充実が重要。

中学校理科 大問5(2)

化学変化に関する知識及び技能を活用して、実験の結果を分析して解釈し、化学変化を原子や分子のモデルで表すことができるかどうかをみる問題

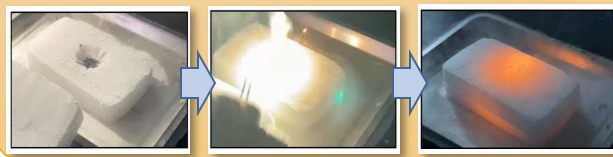


動画



図

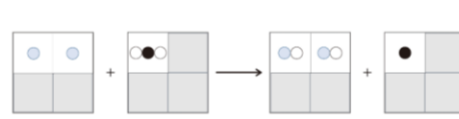
ドライアイスを使用して二酸化炭素中で
マグネシウムを燃焼させる実験動画



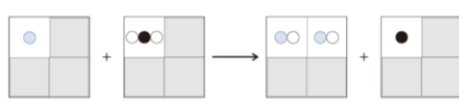
二酸化炭素の中でマグネシウムが燃焼する際の
化学反応について、原子や分子のモデルで表す

正答例

正答率
35.8 %

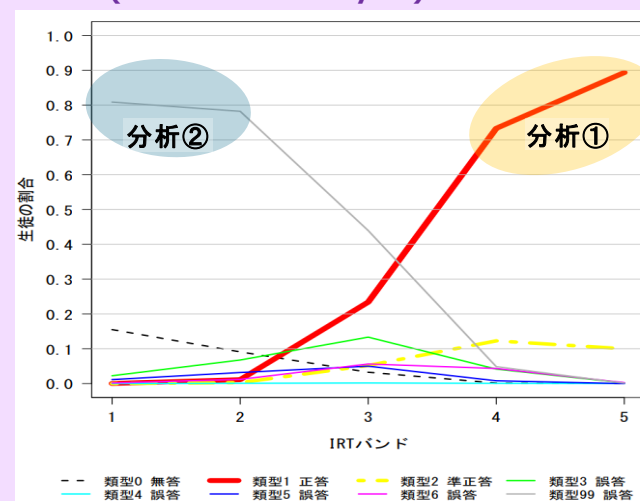


誤答例



化学変化で生じている反応について
十分に理解していない生徒がいた。

G-P分析図(Good-Poor Analysis)



分析①：IRTバンド4、5に属する7割強の生徒は、正答

分析②：IRTバンド1、2に属する8割以上の生徒、IRTバンド3に属する約4割の生徒が、解答類型99（反応する物質と生成してできた物質が何かを整理できていない）

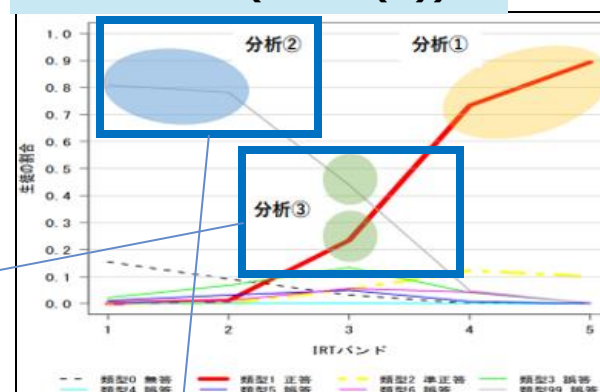


IRTバンド3以下に属する生徒には、まずは「何が反応して、何が生成したのか」を整理できるような指導の改善が必要である。

中学校理科の報告書等においては、全体の解答状況（類型反応等）に加えて、G-P分析図を活用。

IRTバンドごとの解答状況に特徴がみられた問題の分析により、「個に応じた指導」の更なる充実を推進。

G-P分析図(大問5(2))



分析③について(報告書P.95)

☆IRT バンド3に属する生徒では、「物質を正しく原子や分子のモデルで表しているが、化学変化の前後で原子の種類や数が変化している」解答類型3と解答している割合が一定数みられる。

☆具体的な授業場面



反応する物質、生成する物質が整理できました。
化学変化は、
マグネシウム+二酸化炭素→酸化マグネシウム+炭素
と考えることができますね。
原子と分子のモデルを用いて、化学変化を表すときの注意点は
何だったでしょうか。

原子の種類と数を考える
といいですね。

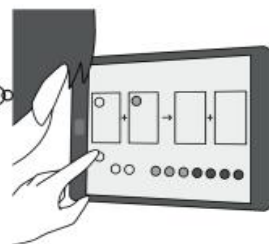
「化学変化の前後で、原子の種類
は変わらない」という性質があり
ました。

「化学変化の前後で、原子
の数は変わらない」という
性質もあったね。



それでは、確認した注意点を基に、タブレット
端末を使って、原子や分子を使って化学変化を
表してみましょう。

原子の種類や数が変化
しないことに注意して、
モデルを使って表して
みよう。



分析②について(報告書P.94)

☆IRT バンド1、2に属する8割以上の生徒が、解答類型99の「上記以外の解答」である。
動画を見て、「反応する物質が何で、生成する物質が何である」ということから確認して、
化学反応式を考えることが大切である。

☆具体的な授業場面



動画を見て、何が反応して、何が生成したかを
考えてみましょう。

ドライアイスの中で、
マグネシウムを燃やしたね。

反応した後は、白い粉末ができて
いました。これは酸化マグネシウム
ですね。

ドライアイスは二酸化炭素の
固体でしたね。
ということは、マグネシウムと
二酸化炭素が反応する物質
ですね。

黒い粒は炭素ですね。



反応する物質、生成する物質が整理できましたね。
よって、「マグネシウム+二酸化炭素→酸化マグネシウム+炭素」
というように考えることができますね。

ICTを活用した学習状況

① ICTの活用状況等

ポイント

- 【p.53】 ICT機器を「ほぼ毎日」「週3回以上」活用する学校は、小学校97%（前年比3ポイント増）、中学校94%（前年比4ポイント増）。また、児童生徒のICT機器を使用する頻度と各教科の正答率・スコアとの間に、一定の関係が見られる。
- 【p.54】 ICT機器が、不登校児童生徒、特別な支援を要する児童生徒、外国人児童生徒等に対する学習活動等の支援や、児童生徒の心身の状況の把握等にも活用されている。

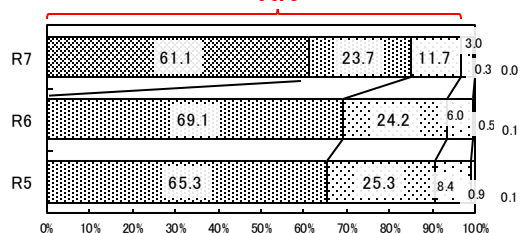
小学校〔58〕
中学校〔58〕

調査対象学年の児童〔生徒〕に対して、前年度までに、児童〔生徒〕一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか。

■ ほぼ毎日（1日に複数の授業で活用） ■ ほぼ毎日（1日に1回くらいの授業） ■ 週3回以上
 ■ 週1回以上 ■ 月1回以上 ■ 月1回未満

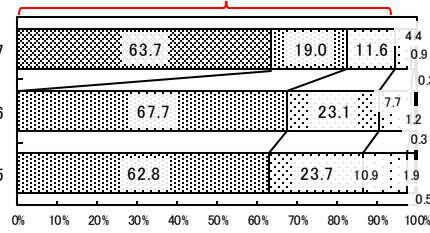
小学校

96.5



中学校

94.3



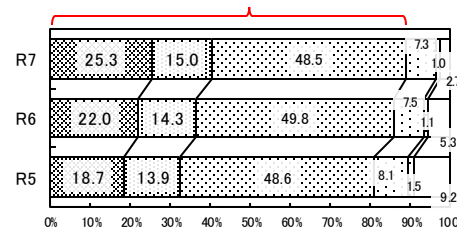
小学校〔66〕
中学校〔66〕

児童〔生徒〕一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか。

■ 毎日持ち帰って、毎日利用させている ■ 毎日持ち帰って、時々利用させている ■ 時々持ち帰って、時々利用させている
 ■ 持ち帰らせていない ■ 持ち帰ってはいけないこととしている ■ 臨時休業等の非常時のみ、持ち帰ることとしている

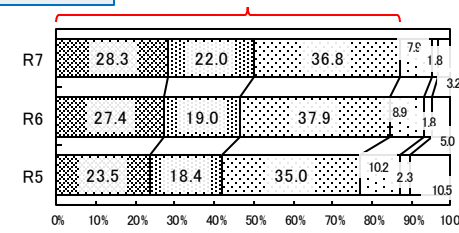
小学校

88.8



中学校

87.1



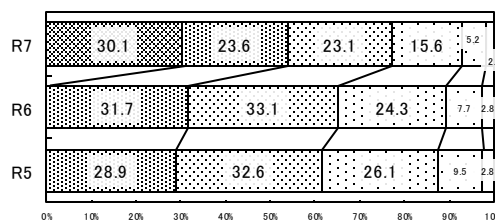
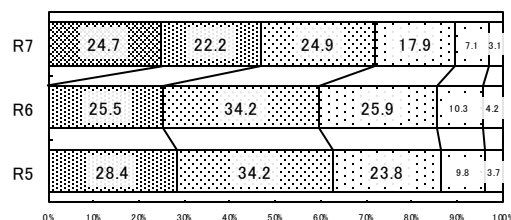
児童〔28〕
生徒〔28〕

5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。

■ ほぼ毎日（1日に複数の授業で活用） ■ ほぼ毎日（1日に1回くらいの授業） ■ 週3回以上 ■ 週1回以上 ■ 月1回以上 ■ 月1回未満

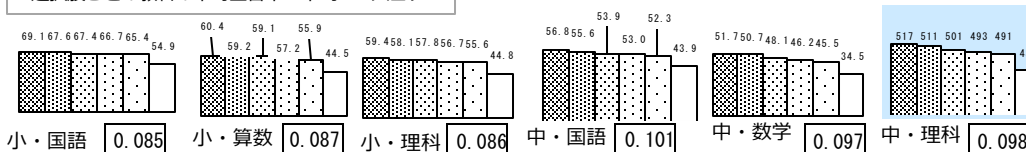
小学校

中学校



クロス集計

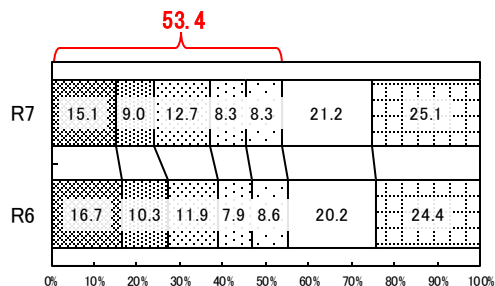
選択肢ごとの教科の平均正答率・平均IRTスコア



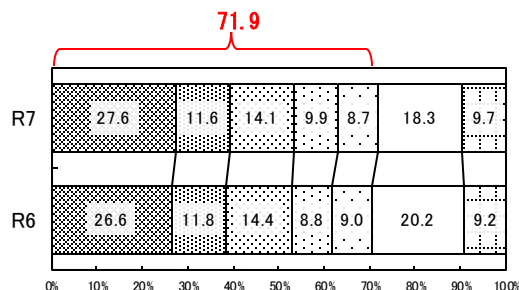
ほぼ毎日
 週3回以上
 週1回以上
 月1回以上
 月1回未満
 活用していない
 該当する児童〔生徒〕がない

(1) 不登校児童〔生徒〕に対する学習活動等の支援（授業配信を含む）

小学校

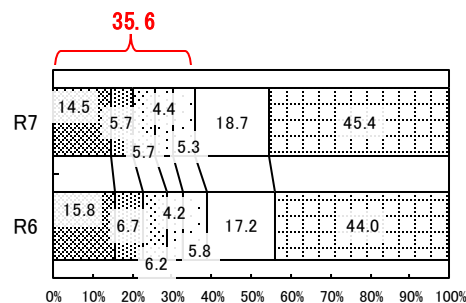


中学校

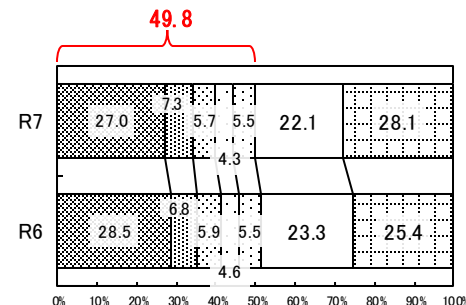


(2) 希望する不登校児童〔生徒〕に対する授業配信

小学校

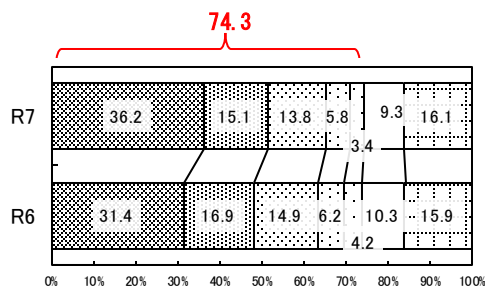


中学校

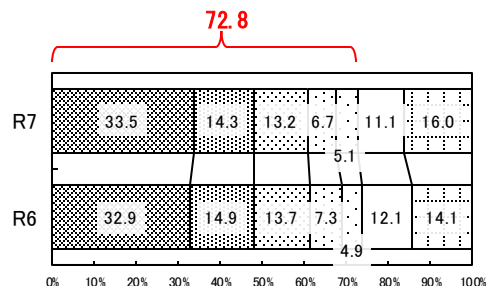


(3) 特別な支援を要する児童〔生徒〕に対する学習活動等の支援

小学校

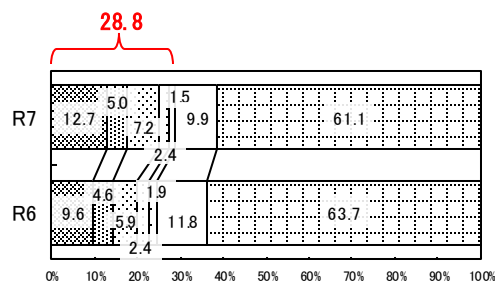


中学校

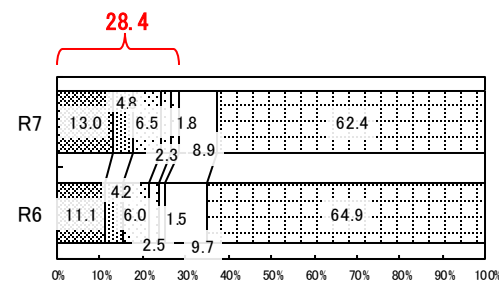


(4) 外国人児童〔生徒〕等に対する学習活動等の支援

小学校

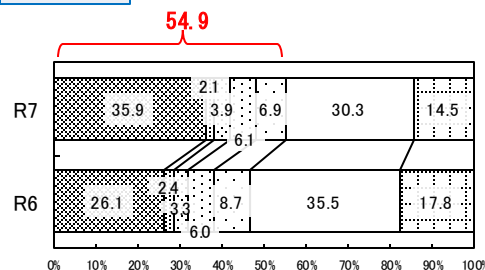


中学校

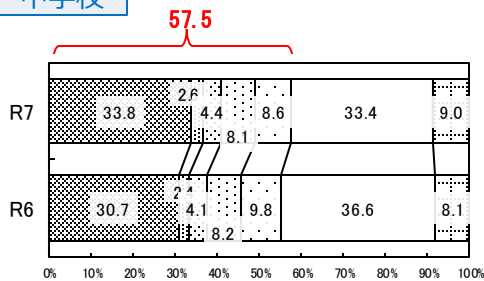


(5) 児童〔生徒〕の心身の状況の把握

小学校

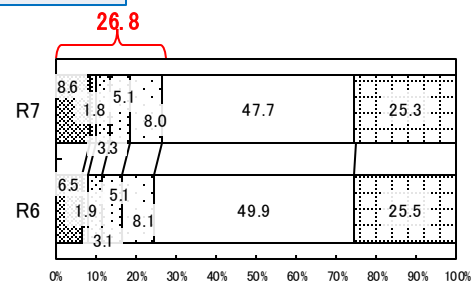


中学校

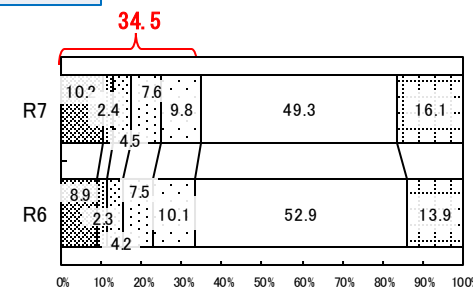


(6) 児童〔生徒〕に対するオンラインを活用した相談・支援

小学校



中学校



② ICTを活用する自信

ポイント

- 【p.55】 約8割の児童生徒がICT機器で「文章を作成する（文字、コメントを書くなど）」ことができる、約9割の児童生徒が「インターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）」ことができると考えている。
- 【p.55】 ICT機器を活用ことができると考えている児童生徒ほど、各教科の正答率・スコアが高い傾向が見られる。CBTで実施した中学校理科とPBTで実施した教科との間で、この傾向に大きな違いは見られない。

※同じ傾向はTIMSS2023（CBTで算数・数学、理科を実施）においても確認されている。

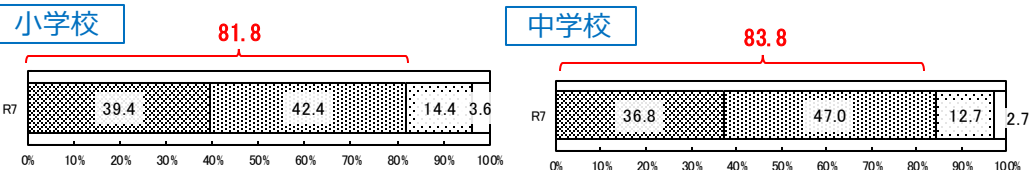
【参考】 TIMSS2023の結果（概要） <https://www.nier.go.jp/timss/2023/gaiyou.pdf>

児童〔29〕
生徒〔29〕

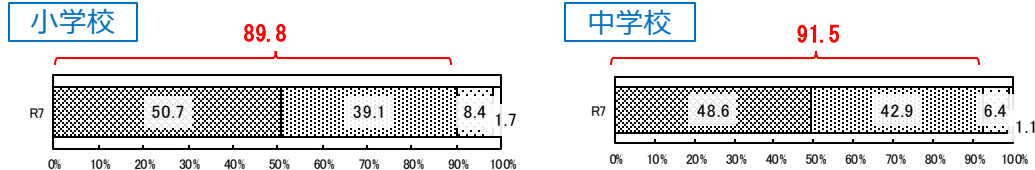
あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って以下のことができますか。（新規）

■ とてもそう思う ■ そう思う ■ あまりそう思わない □ そう思わない

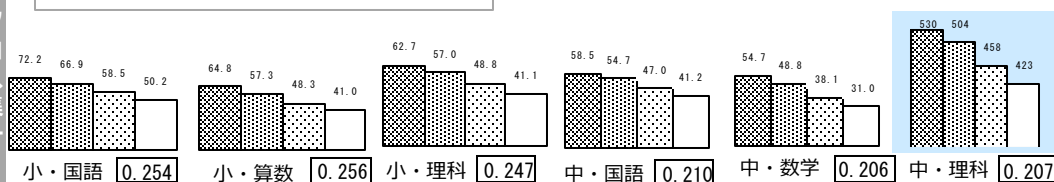
(1) 文章を作成する（文字、コメントを書くなど）



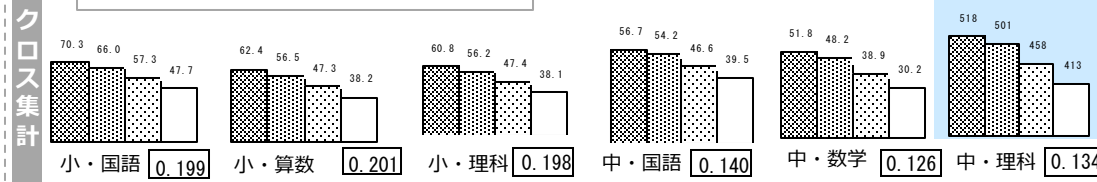
(2) インターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）



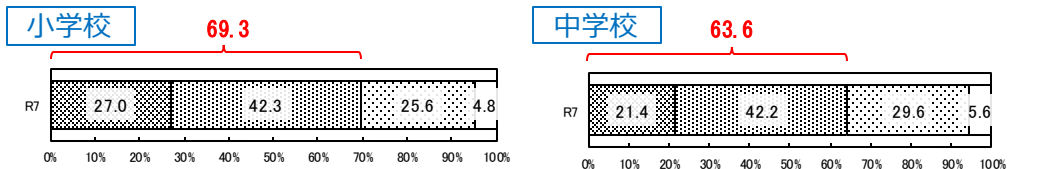
選択肢ごとの教科の平均正答率・平均IRTスコア



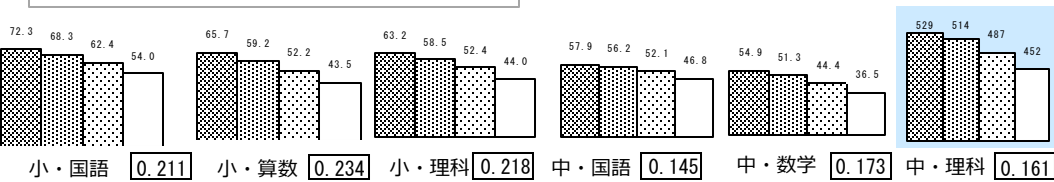
選択肢ごとの教科の平均正答率・平均IRTスコア



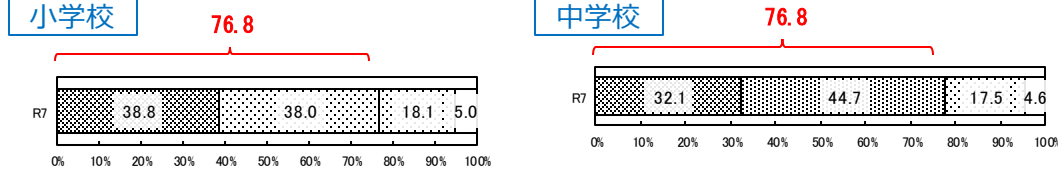
(3) 情報を整理する（図、表、グラフ・思考ツールなどを使ってまとめる）



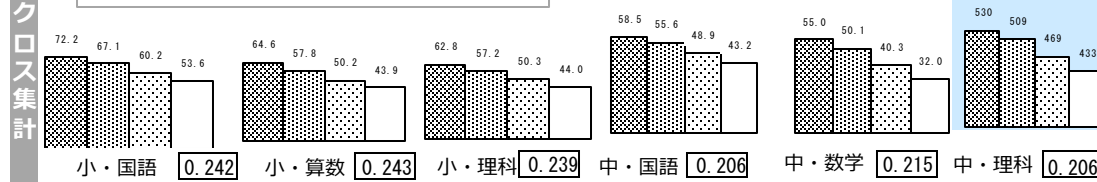
選択肢ごとの教科の平均正答率・平均IRTスコア



(4) 学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成する



選択肢ごとの教科の平均正答率・平均IRTスコア



ICTを活用する自信×探究的な学び

- ICT機器を活用する自信がある児童生徒ほど、探究的な学びに取り組んだと回答している傾向が見られる。

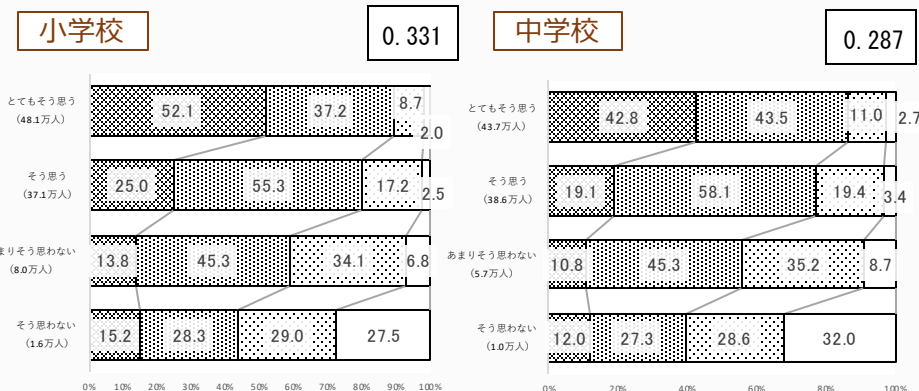
クロス集計 (児童生徒)

あなたは自分がインターネットを使って情報を収集する(検索する、調べるなど)ことができると思いますか。〔29・2〕

【インターネットを使って情報を収集できる】× 【総合的な学習の時間で探究的な学びに取り組んでいた】

総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。〔40〕

- ☒ 当てはまる ☒ どちらかといえば、当てはまる
☒ どちらかといえば、当てはまらない ☐ 当てはまらない



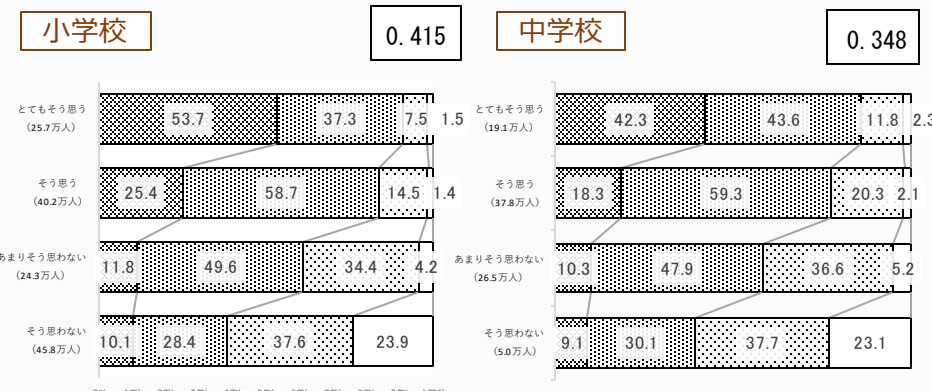
クロス集計 (児童生徒)

あなたは自分がパソコン・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する(図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる)ことができますか。〔29・3〕

【ICT機器を使って情報を整理できる】× 【学んだことを生かしながら考えをまとめていた】

授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。〔33〕

- ☒ 当てはまる ☒ どちらかといえば、当てはまる
☒ どちらかといえば、当てはまらない ☐ 当てはまらない



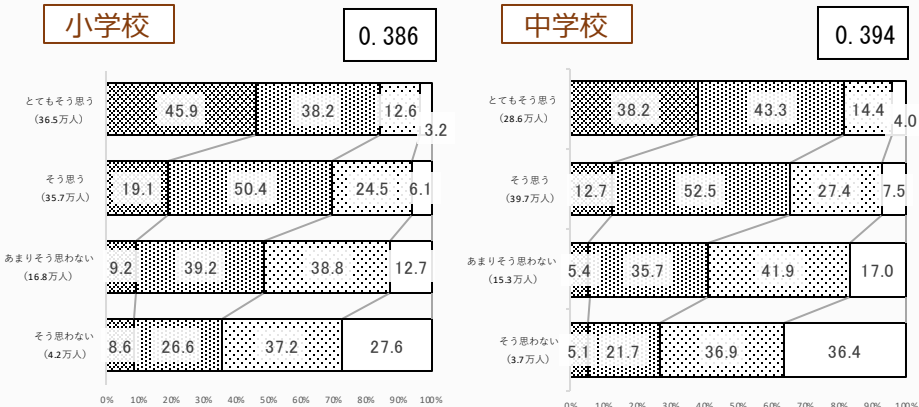
クロス集計 (児童生徒)

あなたは自分がパソコン・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション(発表)を作成することができますか。〔29・4〕

【ICT機器を使って学校のプレゼンテーションを作成できる】× 【授業で工夫して発表していた】

授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。〔31〕

- ☒ 当てはまる ☒ どちらかといえば、当てはまる
☒ どちらかといえば、当てはまらない ☐ 当てはまらない



参考

PISA2022では、情報を集める、集めた情報を記録する、分析する、報告するといった場面でデジタル・リソースを使う頻度は他国に比べて低く、「ICTを用いた探究型の教育の頻度」指標はOECD平均を下回っていた。

- 高校生自身が情報を集める、集めた情報を記録する、分析する、報告するといった場面でデジタル・リソースを使う頻度は他国に比べて低く、「ICTを用いた探究型の教育の頻度」指標はOECD平均を下回っている。

ICT活用調査「ICTを用いた探究型の教育の頻度」指標

OECD平均	0.01
29位 日本	-0.82

※ ICT活用調査に参加したOECD加盟国29か国の平均値が0.0、標準偏差が1.0となるよう標準化されており、その値が大きいほど、ICTを用いた探究型の教育の頻度が高いことを意味している。

【参考】 OECD生徒の学習到達度調査2022年調査 (PISA2022) のポイント
https://www.nier.go.jp/kokusai/pisa/pdf/2022/01_point_2.pdf

ICTを活用する自信×各教科における学び

- ICT機器を活用する自信がある児童生徒ほど、各教科で自分の考えを工夫してまとめたり発表したりする活動に取り組んでいた傾向が見られる。

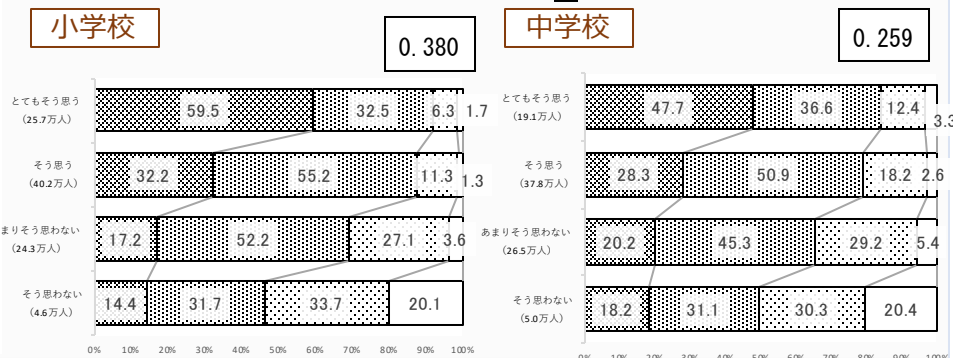
クロス集計

【ICT機器を使って情報を整理することができると思う】× 【国語の授業で文章を工夫して書いている、整えている】

国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたりくわしく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書いていますか。〔児童50〕

国語の授業で、文章を書いた後に、読み手の立場に立って読み直し、語句の選び方や使い方、文や段落の長さ、語順などが適切かどうかを確かめて文章を整えていますか。〔生徒51〕

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる
■ どちらかといえば、当てはまらない □ 当てはまらない

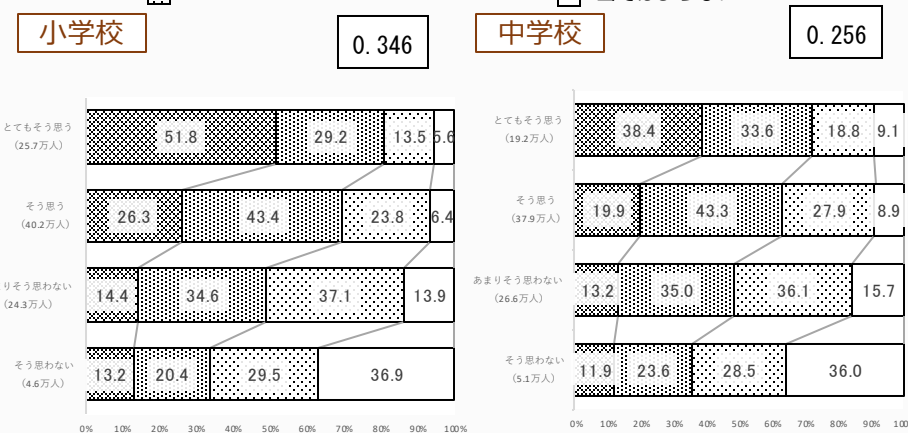


クロス集計

【ICT機器を使って学校のプレゼンテーションを作成することができる】× 【算数・数学の授業でどのように考えたのかを説明している】

算数〔数学〕の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか。〔58〕

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる
■ どちらかといえば、当てはまらない □ 当てはまらない

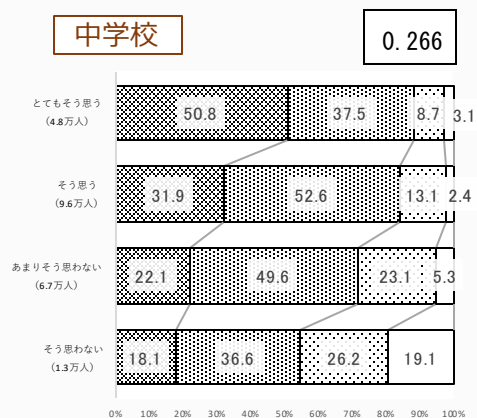


クロス集計

【ICT機器を使って情報を整理することができると思う】× 【理科の授業で観察や実験の結果を自分でまとめている*】

理科の授業では、観察や実験の結果を自分でまとめていますか。〔生徒71-2〕*
*ランダム方式で出題

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる
■ どちらかといえば、当てはまらない □ 当てはまらない

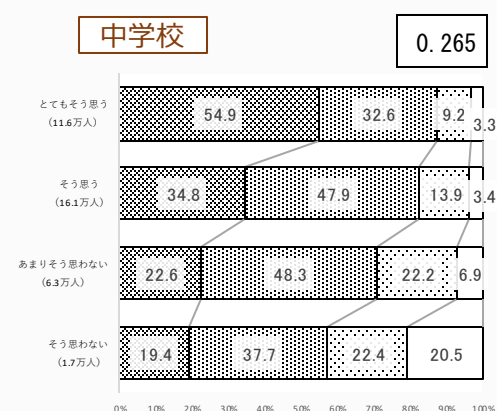


クロス集計

【ICT機器を使って学校のプレゼンテーションを作成することができる】× 【英語「話すこと（発表）」*】

スピーチやプレゼンテーションなど、まとめた内容を英語で発表する活動が行われていたと思いますか。〔生徒72-4〕*
*ランダム方式で出題

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる
■ どちらかといえば、当てはまらない □ 当てはまらない



ICTを活用する自信×「自分にはよいところがある」

- ICT機器を活用する自信がある児童生徒ほど、「自分にはよいところがあると思う」と回答している傾向が見られる

クロス集計 (児童生徒)

【ICT機器を使って文章を作成できる】× 【自分にはよいところがあると思う】

自分には、よいところがあると思いますか。〔5〕

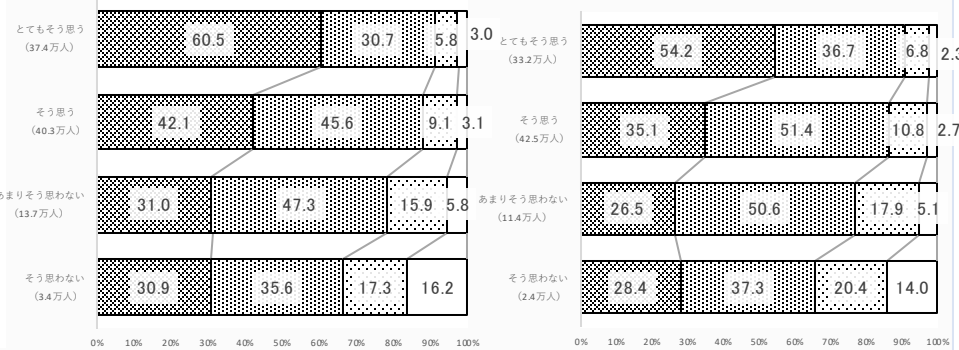
■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる
■ どちらかといえば、当てはまらない □ 当てはまらない

小学校

0.229

中学校

0.218



クロス集計 (児童生徒)

【インターネットを使って情報を収集できる】× 【自分にはよいところがあると思う】

自分には、よいところがあると思いますか。〔5〕

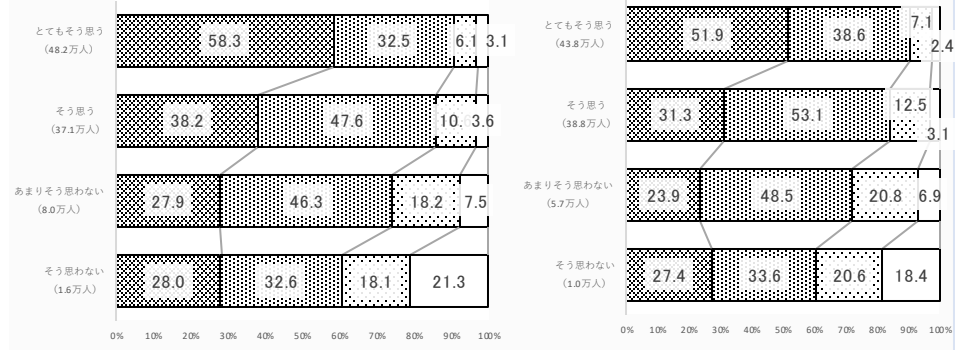
■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる
■ どちらかといえば、当てはまらない □ 当てはまらない

小学校

0.231

中学校

0.223



あなたは自分がインターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）ことができますか。〔29・2〕

クロス集計 (児童生徒)

【ICT機器を使って情報を整理できる】× 【自分にはよいところがあると思う】

自分には、よいところがあると思いますか。〔5〕

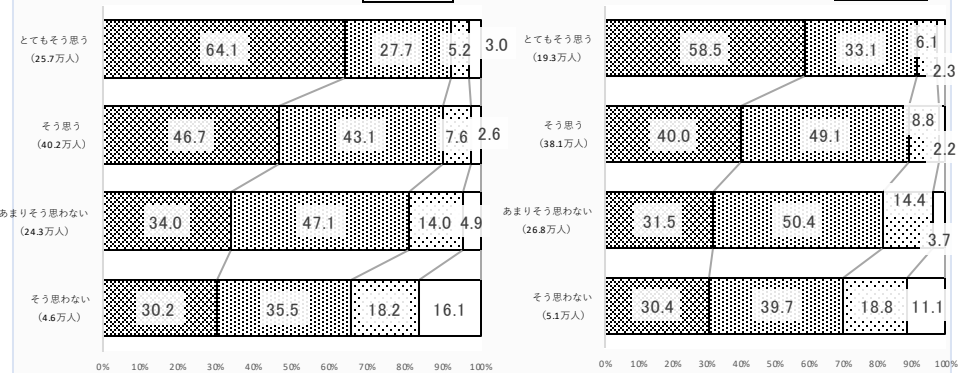
■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる
■ どちらかといえば、当てはまらない □ 当てはまらない

小学校

0.241

中学校

0.209



クロス集計 (児童生徒)

【ICT機器を使って学校のプレゼンテーションを作成できる】× 【自分にはよいところがあると思う】

自分には、よいところがあると思いますか。〔5〕

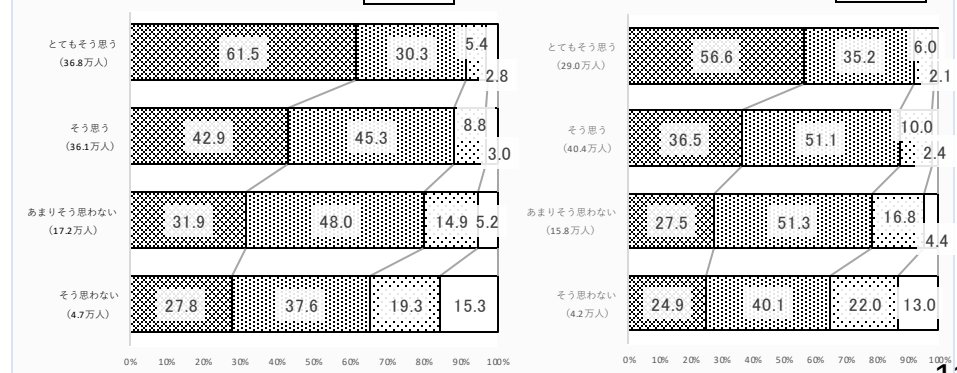
■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる
■ どちらかといえば、当てはまらない □ 当てはまらない

小学校

0.250

中学校

0.246



あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができますか。〔29・4〕

あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器で文章を作成する（文字、コメントを書くなど）ことができますか。〔29・1〕

③ ICT機器活用の効力感

ポイント

- 【p.59】 約9割の児童生徒が、ICT機器は「分からないことがあった時に、すぐ調べることができる」「画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる」「友達と協力しながら学習を進めることができる」と考えている。
- 【p.60】 ICT機器活用の効力感に関して肯定的に回答した児童生徒ほど、自分と違う意見や新たな考えについて考えることに前向きな傾向が見られる。

児童〔30〕
生徒〔30〕

5年生まで〔1、2年生のとき〕の学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、以下のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。

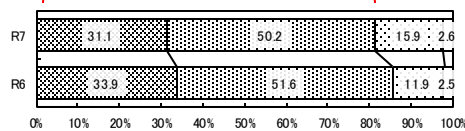
※中学校生徒質問調査では、7項目のうちランダムに選ばれた2項目に回答

■ とてもそう思う ■ そう思う ■ あまりそう思わない □ そう思わない

(1) 自分のペースで理解しながら学習を進めることができる

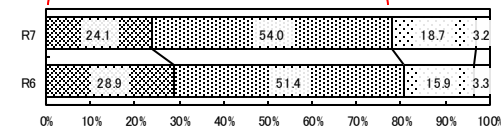
小学校

81.3



中学校

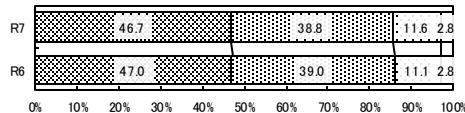
78.1



(3) 楽しみながら学習を進めることができる

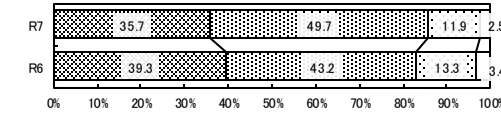
小学校

85.5



中学校

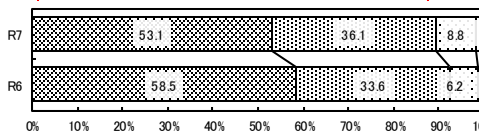
85.4



(2) 分からないことがあった時に、すぐ調べることができる

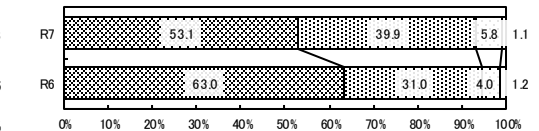
小学校

89.2



中学校

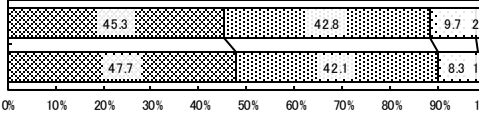
93.0



(4) 画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる

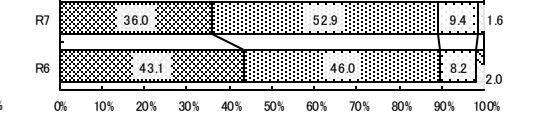
小学校

88.1



中学校

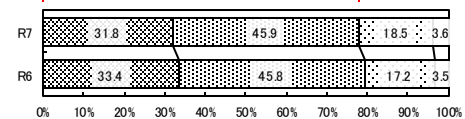
88.9



(5) 自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる

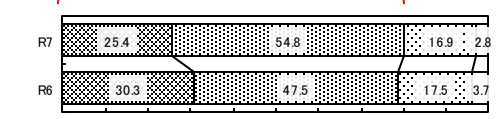
小学校

77.7



中学校

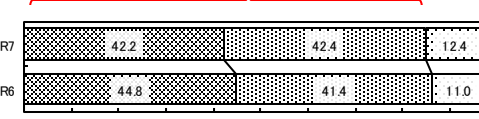
80.2



(6) 友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる

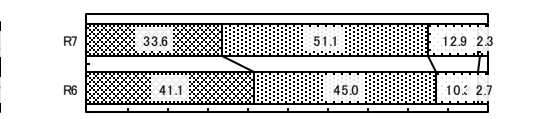
小学校

84.6



中学校

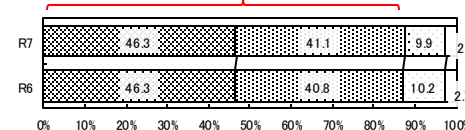
84.7



(7) 友達と協力しながら学習を進めることができる

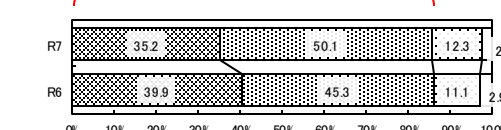
小学校

87.4



中学校

85.3



ICT機器活用の効力感×「自分と違う意見について考える」

- ICT機器活用の効力感に関して肯定的に回答した児童生徒ほど、自分と違う意見や新たな考えについて考えることに前向きな傾向が見られる。

児童〔30〕 生徒〔30〕 5年生まで〔1、2年生のとき〕の学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、以下のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。

クロス集計

(児童生徒)

【ICTを活用すると友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる】× 【自分と違う意見について考えるのは楽しい】

自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。〔13〕

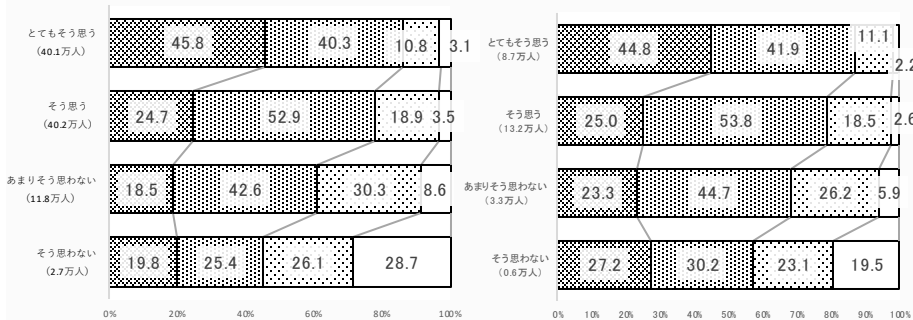
- ☒ 当てはまる ☒ どちらかといえば、当てはまる
☒ どちらかといえば、当てはまらない ☐ 当てはまらない

小学校

0.280

中学校

0.212



ICT機器を活用することによって、友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる。(30-6)

クロス集計

(児童生徒)

【ICTを活用すると友達と協力しながら学習を進められる】× 【自分と違う意見について考えるのは楽しい】

自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。〔13〕

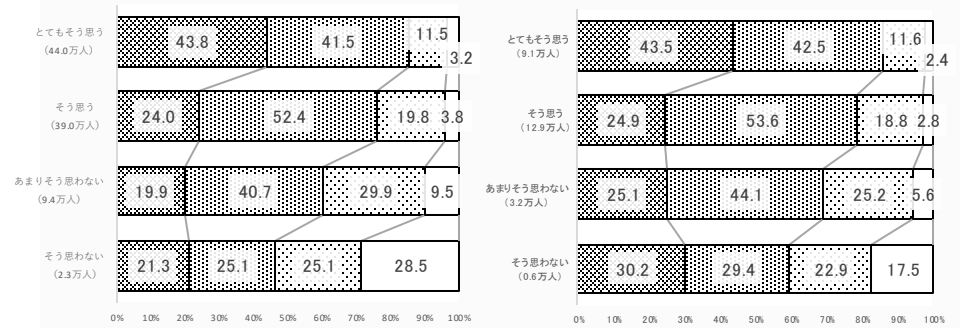
- ☒ 当てはまる ☒ どちらかといえば、当てはまる
☒ どちらかといえば、当てはまらない ☐ 当てはまらない

小学校

0.258

中学校

0.189



ICT機器を活用することによって、友達と協力しながら学習を進めることができる。(30-7)

クロス集計

(児童生徒)

【ICTを活用すると自分の考えや意見を分かりやすく伝えられる】× 【話合いで考えを深めたり新たな考えに気付いたりした】

学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。〔35〕

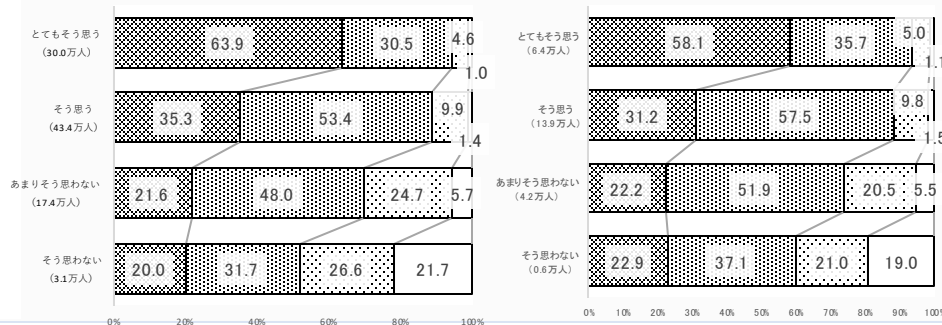
- ☒ 当てはまる ☒ どちらかといえば、当てはまる
☒ どちらかといえば、当てはまらない ☐ 当てはまらない

小学校

0.374

中学校

0.297



ICT機器を活用することによって、自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる。(30-5)

クロス集計

(児童生徒)

【ICTを活用すると友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる】× 【話合いで考えを深めたり新たな考えに気付いたりした】

学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。〔35〕

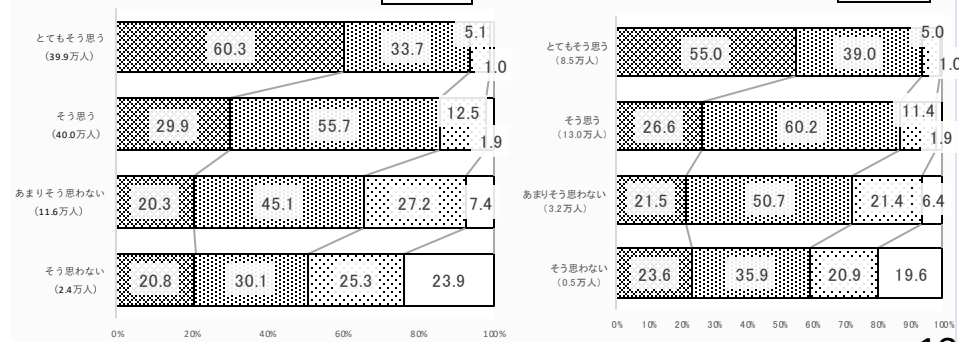
- ☒ 当てはまる ☒ どちらかといえば、当てはまる
☒ どちらかといえば、当てはまらない ☐ 当てはまらない

小学校

0.375

中学校

0.307



ICT機器を活用することによって、友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる。(30-6)